

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571300116		
法人名	医療法人 敬滋会		
事業所名	グループホーム 野洲すみれホーム		
所在地	滋賀県野洲市小篠原476番地1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和5年8月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigyosyoCd=2571300116-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和5年6月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の安全面に配慮し、安心して暮らせるように心がけている。
介護経験の浅い職員が多い為、教育が行き届いていないところも多いが、職員の抱いた疑問を大切に介護における視点や介護技術を織り交ぜながら教育を進めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年に開所した事業所である。「心休まる穏やかな暮らし」「生きがいを感じられる心豊かな暮らし」「笑顔あふれる幸せな生活」「思いやりたくさんの温かい空間」を理念とし日々の暮らしの支援に努めている。コロナ禍で様々な制限があり思うように実践出来ないこともあったが、ウイズコロナに鑑み徐々に開かれた事業所を目指していきたいと模索している。程よい広さの居室やリビングは清潔で整理整頓されて明るい雰囲気がある。「ここは、皆親切で・・・良いところや・・・」と話してくれる利用者の笑顔があった。職員は利用者一人ひとりの出来る力を引き出しペースに合わせた支援が出来るよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
		○	4. ほとんど掴んでいない			○	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
		○	3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない			○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		○	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロア及び事務所に施設理念を掲示しており、会議で唱和しているものの実践している職員が少ない。	理念を共有し実践に努めているが、全職員が意識的に取り組めているかどうか職員間のコミュニケーション不足もあり課題もあると管理者より聞き取る。	事業所の理念をより具体化して取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との挨拶をこころ掛けている職員はいるものの、地域社会とのつながりを意識している職員が少なく、コロナ禍ということもあり地域との交流が出来ていない。	コロナ禍の開所したということもあり、地域との繋がりを持つ機会がなかった。まず近隣の散歩、買い物外出を増やして行きたいと考えている。まだ具体化はしていないが利用者と地域住民と交流が出来るサロンが出来ないかを模索している	地域の方と持ちつ持たれつのつながりが出来るといいですね。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者、ケアマネに関しては相談援助という形での地域貢献が出来ているが、地域との交流が出来ていない為、それ以外は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面で開催している為、意見の吸い上げが出来ていない。	事業所の現況報告や取り組みを推進会議メンバーに書面で送付したが意見や質問は殆どなかった。次回より参集で運営推進会議を予定しており報告だけではなく情報交換や意見交換をしてサービス向上に活かしたいと考えている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスについての質問等を解決する為、連絡を取らせて頂いている。	市の担当者とは常に連絡を取り合って連携深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年に2回の研修を行っているが安全上の理由で玄関の施錠をさせて頂いている。	身体拘束廃止委員会が中心になって年2回研修を行って振り返り確認している。外へ出たい様子を察した時は、庭先の散歩やベンチに座り話をする等、場面に応じた対応を共有している。	昼間の施錠が常態化しない工夫を話し合われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については研修で学ぶ機会を設けているが、安全に目を向けるあまりスピーチロックになってしまっている事が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	福祉経験の浅い職員が多い為、制度の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず読み合わせを行っており、各章ごとに疑問点が無いか尋ねるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来る限りご要望にお応えしているが、季節報の整備が不十分な為、活動内容を外部に公開出来ていない。	コロナ禍で制限付きの面会ではあったが来訪時や電話で意見や要望を伺った。また利用者の日用物品等の補充連絡時、居室担当職員が利用者の日頃の暮らしの様子を伝え意見や要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者様のより良い暮らしに直結する意見が少なく、職員本位の意見になってしまっている。また、利用者様に対する意見を優先している為、意見が反映されていないと感じる職員も多く感じる。	会議に参加できない職員には、議事録を閲覧し意見をノートに書き、リーダーが集約するシステムとなっている。提案や意見は出しやすいと職員より聞き取った。管理者は職員間のコミュニケーションを増やせるよう業務の見直しを検討している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性的な人員不足の為、残業が慢性化しており、管理者やケアマネが現場業務を補っているものの時間外労働の削減には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を積極的に受講することを推進しているが、人員に余裕が無いため内部研修のみの受講になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム3施設のネットワークをつくる方向で調整している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけご本人の思いを傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係づくりに努める必要がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で情報共有し必要な支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理想的な関係を築けているとは言えないが、近づけるように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様への関心があり、協力的な家族様とは話し合う機会もあるがそうでない家族様との関係は難しい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設において利用者様との会話の中での情報収集が不十分である為、利用者様の背景まで把握出来ておらず、支援に繋がっていない。	契約前の面接時に馴染みの人や場所を本人・家族等から聞き取って職員と共有しているがコロナ禍の自粛もあり実際に行き来する支援には、繋がっていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折、職員が媒介しながら孤立される利用者様もなく、比較的円満な状態、関係を保っている。 個性や相性などを考慮してレクの内容などを変更するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設入居後は交流は無いが、まれに施設外で家族様と顔を合わせる事がある為、挨拶や軽い会話を交わす様に心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向は把握しているつもりであるが、それらに沿う事はほとんど出来ていない。	日中は業務に追われ利用者とゆっくり会話できないことも多いが夜勤時には、比較的、本音を聴くことが出来ると職員より聞き取った。聴き取った思いや意向は記録で共有している。	利用者の笑顔を引き出す支援は職員にとってもやりがいに通じると思われます。優先順位を決め取り組めるといいですね。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との会話に重きを置いている職員が少ない為、記録類からの情報収集に頼らざるを得ないということもあり、生活歴等の把握は出来ていない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人観察し他職員とも情報共有して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	適時カンファレンスを開いているが職員からケアのあり方に関する意見が少なく、介護支援専門員からの提案に頼り切っているように感じる。	申し送りノートやケア記録を参考に随時職員間でカンファレンスを行いモニタリングをしている。ケアマネは本人・家族等の意見や希望を聞き介護計画を作成して説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしているものの、記録量が少ない為、実践に活かせていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現場職員に対して地域資源の活用を促してはいるが、活用できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域資源の活用は出来ていないが、引き続き活用を促していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医や外部のかかりつけ医と適時連携を取りながら受診及び他科受診等の支援を行っている。	内科は事業所の提携医による往診を利用されている。他科の診療が必要な場合は、基本は家族同行で通院されている。医療情報は関係機関で共有し事業所の看護師が健康管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携は取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と、管理者、ケアマネ及び看護師で連絡を取り合い、状況把握に努め、早期退院への支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を始めたばかりで、細かな体制はまだ出来ていない。看取りを一件経験したので足りない事を一つずつ構築していかなければならない。	契約時に看取りについての説明を行い、実際に重度化の兆候があった時再度、本人・家族の意向を確認し看取りの契約を結び医療との連携を強化しながら体制を整えている。夜間等急変の場合は管理者が応援に入る体制を取っている。年1回はターミナルケアについての研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部委託にて応急救護の研修を行う予定だったが新型コロナクラスター発生により今年度は行えていない。今年度に改めて行うよう計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練は行っているが、全員が避難場所の把握が出来ているわけではない。 また、備蓄についても常備していない為、早急な準備が必要。	定期的に避難訓練が実施されているが、災害時に備えた非常用食料・備品が備えられていない。	火災だけではなく様々な災害を想定した避難方法・減災について運営推進会議や家族等と話し合いが出来たらいいですね。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いを全て実現することは難しく、現在においてはほぼ実現出来ていない。 今後、外出希望等、出来る事から実現していこうと考えている。	研修・その都度の注意で尊厳や誇りを損ねない意識を持たせている。業務に追われ関わりが希薄にならないよう改善策を模索している。個人情報(写真含む)は同意を得て使用し、管理も細心の注意がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	業務の時間短縮に里さを直している事から一緒に衣類を選んだり、という事も出来ていない。 今後、施設として利用者様とコミュニケーションを取っていき、希望を職員間で話し合い、どのように実現していくかを考えていき		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位で暮らしのペースを考えている為希望に沿って支援出来ていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で更衣出来る方以外は職員本位になっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の意向を聞き取れていない為、出来ていない。 片付けに関しては一部の利用者様に手伝って頂いている。	外部からレトルトメニューを取り入れている。キッチンで温め配膳。ごはん・みそ汁はキッチンで作る。苦手なメニューは代替食を提供したり、年に数回食レクで手作りしている。2～3名であるが利用者が食器洗浄する。	スタッフ不足が1日も早く改善され、手作りの食事が提供されるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量に関して、毎回記録し、職員が把握している。 また、栄養に関しては委託先の栄養士がバランスを考え献立を作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行うように決まりをつくっているが、実践できてない場合もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼ、定時排泄のみになっているので、職員の話し合いの中で、排泄回数を増やすという選択肢を職員が持つことが必要だと感じる。	排泄チェック表は記録しているが、利用者の殆どが自らトイレに行く。着用のパット等が汚れた時も安易にパットを変更せず、声掛け誘導の回数を増やすことを目指している。介助が必要な利用者は定時誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すため、起床後に牛乳を飲んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	同性介助の希望は聞かせて頂いているが、職員都合で入浴日や時間を決めている。	1日3名程度、週2回入浴を実施。浴室は明るい色調でまとめられ、手摺の数や位置も安全に配慮されている。同性介助希望者にも対応し、入浴日の変更も柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	どういった時に浅眠、不眠が起こっているのかを職員間で話し合い、改善に努めていかなければならないが、現在は眠剤頼みになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の薬情報を挟んでおり、都度確認できるようにしている。落薬等の服薬事故が多いので職員の意識向上も必要だと感じる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事をお願いしているが不十分だと感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数が十分な時は敷地内ではあるが外出して頂いているが、買物等の支援は出来ていない。	人材不足から散歩等の外出支援が十分に行えていない。建物前の駐車スペースが十分に広く、外気浴・日光浴を行っている。職員数が充足したら外出支援を充実させたいと考えている。	下肢筋力低下・強化のためにも、日常的に近距離の散歩でも行えるよう、職員数が充足すると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様同士でお金のやり取りをしておられる事があり、金銭トラブルを防ぐために金銭の持ち込みはご遠慮いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時に電話をして頂いているが、手紙についての支援は出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は出来ているが、環境整備に関しては改善すべき点が多々ある。	キッチン是对面でフローアを見渡せる。その前に利用者の寛ぎスペースがあり、テレビも観やすい設えである。適度な広さで、明るさや照明、温度も適切である。トイレ・浴室も介助しやすいスペースが確保されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の相性等をみて都度食席変更を行っており、自由に移動できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特定の利用者様に関しては出来ているが、全員出来ているとは言えない。	居室はやや手狭であるが、落ち着く広さである。窓の位置は適切で、家具は作り付けである。その為自宅からの持ち込み家具は少ないが、自分なりの飾り付けをされている居室や、少ないが自宅からの持ち込みもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の利用者様についての好奇心(出来事の見解)が不十分な為、工夫出来ていない。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有はできているが、実践が出来ているわけではない。	施設理念という目標に向かって職員が一丸となって取り組むことが出来る。	理念をより具体化し、取り組むべき方向性を示し、職員の理解を促すと共に利用者様に心豊かな日々を送って頂く。	6ヶ月
2	23	業務に追われている為、利用者様の意向に対する把握が出来ていない。 また、業務を時間で区切っている為利用者様の生活を業務に合わせて頂いている。	利用者様との関りを持ち、利用者様の意向を日々の生活やレクリエーションに活かす。	現在の時間で区切られた業務を一度解体し、利用者様の生活に合わせ、利用者様との関わりを増やすと共に掃除等の業務は空いた時間に行うなどの臨機応変な対応出来るように職員間のコミュニケーションを増やす。	6ヶ月
3	37	業務に追われている為、入浴の準備等利用者様に選んで頂くべき事を職員のみで決めてしまっている。	利用者様が使うものや着替え等をご自身で選んでいただく。	職員に自己決定の大切さを伝え、利用者様が自己決定できる環境を整える。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()